

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 057	提案機関名 自然環境保全センター自然再生企画課
要望問題名 溪流生態系のモニタリング手法開発	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 第2期丹沢大山自然再生計画では、各種事業のモニタリング結果や実施状況を踏まえて、溪流生態系の保全・手法の検討を行うこととしている。溪畔林整備事業や土壌保全対策等が進む中、事業の結果、溪流生態系がどのように改善されているのかを評価する指標が必要となる。 そこで、既に行われている各種調査結果等を整理するとともに、必要に応じて追加調査を行い、溪流生態系全体(水中、陸上含めて)の評価手法を確立(指標の選定等)する。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術所 <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)	対照流域法による総合モニタリング、森林生態系の効果把握手法の開発		
対応の内容等	自然環境保全センターの研究部門では、水源環境保全・再生施策の効果検証として、対照流域法によるモニタリングとして、水量や水質のほか、動植物相、土壌、土砂流出量などの変化を調査し、長期的にデータを収集しています。丹沢地域では、東丹沢の大洞沢、西丹沢のヌタノ沢で実施しています。また、水源環境保全・再生施策の総合評価として森林生態系の効果把握手法の開発に着手したところです。 これらの課題の中で、引き続き、評価手法の確立に取り組んでまいります。		
解決予定年限	①□ 年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			